



天皇を中心とした政治



当時人々の生活の様子は、平城宮跡から発見された木簡、または各地から都へ届けられた税や特産物などを手がかりにしました。このころには、農民と貴族で生活に大きな差があったことに驚きました。

め 当時の世の中は、どのような様子だったのだろう。

農民の住居は、竪穴住居

↑
やねが地面から離れている
農民は国にたくさんの税を収めていた。
重労働にたえられずに土地を捨てて出ていく人がいた↓
考え
帰ってこないのかな

- 〈貴族〉
- ・権力がある。
- ・優雅な生活
- ・農民より贅沢な暮らし
- 〈農民〉
- ・税を払う義務がある
- ・とても大変な暮らし
- ・食事の品数が少ない

食事

貴族…農民が納めた特産物を食べていた。
農民…自分たちで用意していた。
働く場所に行くときの食事も自分たちで用意していた。(農民)
負担に耐えられずに逃げ出す人もいた。
思ったこと・考えたこと
・貴族は贅沢な暮らし
・貴族はずるい
・農民は負担が大きかった

導入では、法隆寺の想像図を手がかりに、聖徳太子がどのような国づくりを目指したのかを考えました。建設に関わる多様な人々の様子や、前単元で学習した古墳の建造と比較すること、また聖徳太子がおこなった様々な取組を調べることを通して、大陸の文化を取り入れつつ、天皇を中心とした政治を目指していたことを捉えました。

また、聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、蘇我氏を滅ぼした中大兄皇子や中臣鎌足らに引き継がれ、税や労働の仕組みが生まれました。さらに奈良時代には、仏教を中心とした政治がおこなわれ、その象徴が大仏づくりであることも捉えました。

さらに、大陸との関係もこの時代に大きな影響を与えました。仏教や学問、国家の仕組みなどを取り入れたことによって、中国にならった国づくりがなされていたことに気付くことができました。

遣唐使といえは・・・

授業の中では、阿倍仲麻呂だけでなく、吉備真備を扱いました。真備公ゆかりの遺跡を、子供たちに紹介しました。



吉備真備は、奈良時代、真備町あたりで勢力のあった氏族下道国勝(しもつみちくにかつ)の子として生まれました。早くから「一を聞いて十を知る」という大変な神童だったそうで、22歳のとき遣唐留学生として中国に渡り儒学をはじめ天文学や兵学を修め、学者として知識人として重用されるようになります。57歳のとき再び遣唐副使として中国入りして多くの文物を学び、帰朝後は武勲をあげるなどして政治的にも活躍し、ついに右大臣にまでのぼりつめます。倉敷市真備町(旧吉備郡真備町)の地名は、郷土の偉人吉備真備(きびのまきび)が生まれたところとしてつけられたものです。

<倉敷観光 WEB より>